

高温・干ばつ対策 特報 2020・6 月

発行日：令和 2 年 6 月 17 日
JA 中野市営農センター

5 月以降土壌干ばつ状態が続いており、生育への影響が心配されます。下記を参考に対策を講じてください。

気象特記

- ① 5 月：気温：真夏日 3（最高 31.4℃・5/2）平均気温 16.8℃（平年比+1.0℃） 降水量 37.5 mm（平年比 54%）
- ② 6 月：気温：真夏日 4（最高 34.5℃・6/9）上旬平均気温 21.3℃（平年比+2.6℃）降水量 0.0 mm（平年比 0%）*6/10 現在
- ③ 3 か月予報（気象庁）：6・8 月の気温帯は高い見込み。梅雨入りはやや平年よりやや遅い。

1. 共通

① かん水

天候やほ場の水分状態、土壌条件にあわせて、適宜かん水を行う。尚、かん水設備のない地域では土の湿潤状態を確認し、かん水が必要な場合は、タンク等で水を運んで無駄のないように樹冠下を中心に散水する（ほ場面積の 60%程度）。水量が少ない場合のかん水時間帯は夕方が望ましい。尚、蒸散防止のため、敷きワラ・マルチ等を行う。

② 熱中症予防

炎天下の長時間に渡る作業はできるだけ控えてください。また、作業中は、帽子等の日焼け防止対策を万全にするとともに、十分な水分補給と休息時間を確保し、体調がすぐれない時は作業を中止してください。

③ 害虫対策 * 全域でカメムシ類の被害発生中です。暖冬の影響で全国的に発生量が多い状況です。ご注意ください。

ハダニ類・シンクイムシ類・アザミウマ類等の早期多発が心配されます。早めの予防散布を行い、密度抑制に努めてください。尚、死角が出ないように特に散布量は多めに設定してください。

2. 果樹

① 日焼け防止対策

- ◆ 主枝・亜主枝等の背面部分は日焼け果が発生しやすい。徒長枝は全て切らずに、間引く程度か、30 cm程度残して切除して、「日除け枝」を設ける。
- ◆ 葉がない部分は、白塗剤・ワラ・段ボール等で日焼け防止対策を講じることも有効。

② 新梢整理

日焼けが発生しやすい南西方向の樹冠外部の切除量を減らし、日焼けが発生しないように配慮する。

③ ぶどう

- ◆ かん水を適宜実施し粒肥大促進を図る。好天日が続く場合は、敷きワラを実施し、土壌の乾燥を防ぐ（保水）。
- ◆ 【注意】 展葉 5～8 枚部にて異常葉(小さい・黄変・奇形など)が発生している場合はたっぷりとかん水する。
- ◆ 日当たりの良い所（主枝延長枝や若木、弱樹勢樹など）中心に日焼けが発生するため、袋かけの際は傘かけを必ず行う。尚、日当たりの良い場所では遮光率の高いクラフト笠・タイベック傘を利用する。

④ もも・プラム

- ◆ スモモヒメシンクイ等の早期多発が心配される。収穫まで概ね 10 日間隔で薬剤散布を進める。併せて、被害果の処理を早めに実施する。
- ◆ 7 月に収穫期を迎える早生品種は、高温により成熟が進む可能性があるため、果肉硬度を参考にしながら適期収穫を行う。
- ◆ もも等で日焼け果の発生が心配される場合は、除袋する 2～3 日前に袋の下部を破り、外気温に馴らしてから除袋を行う。

⑤ りんご・ナシ類

- ◆ 高温乾燥は果実肥大や日焼け果発生への影響が大きいので、定期的にかん水を行う。
- ◆ りんごで日焼けの発生が心配される園では、早急に園の南～西側に寒冷紗資材を設置する。
- ◆ 日焼け防止のため過度な徒長枝の除去を控え、日陰を適度に作る。
- ◆ ハダニ類の早期高密度化が心配される。場合によりダニ剤の前倒し散布を実施する。 *詳しくは各特報参照

3. 野菜・水稻・花き

- ① 【共通】急激な気象変化は、大きなストレスになるので、栽培品目の生育ステージや土壌条件等に応じて、かん水などの適正な管理を行う。
- ② 【共通】日焼けや着果不良を防止するため、寒冷紗や遮光資材を用いて、できる限り温度低下に努める。
- ③ 【共通】アブラムシ類・アザミウマ類が発生中。今後、オオタバコガ・ハダニ類の発生が予想されるため状況にあわせて早めに薬剤散布を実施する。尚、高温時の薬剤散布は薬害が発生しやすいため注意する。

④ 野菜

- ◆ カルシウム欠乏対策：高温・乾燥が続くとカルシウム欠乏による生理障害（心腐れ、縁腐れ、尻腐れ等）が発生しやすいので、夕方等涼しい時間帯にかん水を適宜行い、カルシウム資材の葉面散布を行う。
- ◆ きゅうり、なす等の果菜類では不良果は、早期に摘果し、株の負担を少なくして草勢の維持を図る。古葉や病害葉は摘除する。

⑤ 水稻

- ◆ 出穂以降は極端な土壌乾燥を避け、土壌水分を保持して根の老化防止と健全な登熟を図る。
- ◆ 【要注意】 高温の年は斑点米の原因となるカメムシ類が発生しやすいため、発生状況を見て適期に防除を行う。
本年は全国的にカメムシ類の発生が多いため、ご注意ください。

⑥ トルコギキョウ

2 年連続で花やけ・花傷みが多発しています。去年は曇天が続く厳しい気象条件でしたが、これからは特に **気象条件の影響** を受けにくい栽培管理を実施しましょう。圃場での早期枝整理、4 枝整理、中心花取り（＋大輪は芽整理）、寒冷紗設置、セルキープ 1,000 倍散布(チップバーン 葉先枯れ防止)、防除・かん水は涼しい時間帯をお願いします。

本年から 6~8 月出荷 鮮度保持剤は、クリザール K20 -C 1,500 倍 をご利用ください（老化、花傷み抑制）。詳しくは、6/3 配布の花き特報をご覧ください。

⑦ アスター・コギク等

草丈を伸ばすのは着蕾前までです。灌水の実施と定期防除の実施をお願いいたします。ハダニ類発生初期は、下葉の葉裏から発生するため、ダニ剤は地際から葉裏にたっぷり散布しましょう。

過乾燥が続くと早期開花の原因になりますので、畝が葉で隠れるまでは適期灌水に努めてください。敷きワラや、もみ殻等の施用で乾燥を防ぐことも有効です。